

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600153		
法人名	サン・ミルク 株式会社		
事業所名	横川目グループホーム長寿園		
所在地	北上市和賀町横川目13-3-4		
自己評価作成日	平成28年8月19日	評価結果市町村受理日	平成28年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2015_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0390600153-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>事業所と職員は、利用者及び家族の思いを尊重し、共同生活の一員として常に利用者の立場に立った援助を行う為に、以下の点を基本理念として取り組んでいます。</p> <p>(1) 利用者様の安全・安心を第一とします。</p> <p>(2) 利用者様の意志を最優先します。</p> <p>(3) 地域のお役に立てる施設を目指します。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の正面に道路を挟んで小学校の正門・校庭・校舎へと広がり、田園風景に続いている。ゆったりとした時間が流れているように思われた。また、外国人の職員(中国)がおり、介護福祉士の資格を取得している。専門用語など分からないことは、管理者等に聞きながら、一生懸命努力をしている様子と周りの理解や協力により、適切なケアにあたっている様子が窺い知れる。月に1回は、デイサービスで餅つきを行っているが、訪問調査当日は、グループホームの職員も協力して餅つきをし、昼食に御馳走になった。介助が必要な利用者の方々も、同じお餅を食べられていることも事業所の利用者に対する姿勢と感じた。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・「理念」「職員の心構え」は開設時に管理者、職員で話し合っ決めて。事務所、玄関、ホールに掲示し各自が確認しやすいようにしている。	利用者個別に理念を活かした支援が行われるよう、職員間で話し合い検討し、実践につなげている。事務所、玄関、ホールに掲示し何時でも何処でも確認できるようになっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会に加入し、草かりに参加した。前年より地域の方よりお借りした雛人形を飾ったり、知人の手作り人形を飾り、地域の方々に見に来て頂いた。受診に関してタクシーでの受診は継続して行っている。	地域の方より借用した昭和初期の雛人形等を飾り、近隣の方々に見に来ていただいている。また、月に1回の餅つきでは、近隣に餅を届けるなど、事業所として地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・夏祭りや運動会等で交流を持つようになり、グループホームがどのような所なのか、少しずつ分って頂けるようになって来た。また北上市の歳末助け合い演芸大会に継続して参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・民生委員、駐在所員、地域包括支援センター、利用者、家族、施設代表で構成し2か月に1回会議を設けGHの運営状況をお知らせしたり、皆さまから助言を頂きながら運営の向上に活かしている。	運営推進会議では、事業所の実情に合った具体的な意見が話し合われている。グループホームとしても努力をしているが、できれば地域の方々の意見や情報も得られるように、メンバーの広がりを期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市の地域密着型担当者や、生活保護受入について分らない所は質問させて頂き、意見等も頂いている。3月1日実地指導が有りましたが、特に指摘される事は無かった。	生活保護の受け入れなど、制度で不明なことは相談して、対応の準備を行っている。また、運営推進会議に地域包括支援センター「わっこ」より参加していただき、事業所の取り組みや意見が確認できる体制となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・施錠は夜間のみで日中は開放している。身体拘束はどのようなものがあるのかや、拘束を行わない為の対応については会議の中で話し合い職員一人一人が意識している。	スピーチロックも含め、利用者の身体に危険があると思われるとき以外は、身体拘束は行わないよう取り組んでいる。言葉による拘束についても、勉強会を開催している。転倒事故を防ぐため、部屋にセンサーを設置している。(家族へは説明し了承を得て実施している。)	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修等を受けた職員が中心になり、勉強する機会を設けている。また、テレビ等で放送された事柄について話合ったり、日頃の援助方法や接遇についても見直しをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・権利擁護や成年後見制度について研修を受けた職員が中心になり、研修等を行っている。研修に参加する機会があれば介護職員も研修に参加できるよう支援している。現在成年後見制度を利用されている方は居りません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・利用契約時、条文を読んで説明し、意見等を尋ねたうえで契約締結を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・玄関に意見箱を設置しているが家族は面会時などに管理者や職員に直接お話しして下さる。遠方にお住いの家族には電話で連絡し合いつながりを持っている。利用者の状況や大事な事は毎月お出しする手紙で報告している。	利用者家族からの苦情や意見は、管理者や職員に直接、話していただいている。また、苦情があった場合は速やかに検討し、改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎朝の朝礼や毎月の職員会議で職員一人ひとりから意見などを聞くように努めている。また業務中に意見がある時はその都度言ってもらっている。	運営に関する意見は、特に職員からは出ていない。また、職員からの聞き取りでは、「代表取締役や管理者は話しやすく相談もできる。」と話している。日常的に業務に対する意見は、職員会議やその都度話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・勤務体制(人員)の確保、適正な給与体系等、条件の整備に努めている。また、研修等に参加する機会を設け向上心を持てるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修に参加し、内部研修に活かせるようにしている。 ・内部研修も一人ずつテーマを決めて発表しあうようにし、職員全員が同じスキルアップできるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・県のグループホームの定例会や花北地区の定例会に参加し、お互いの施設の情報交換等行っている。他グループホームの職員交換研修は外部に向けても積極的に勧めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前の事前調査の際、本人の要望を伺い、ケアしていた介護職員やケアマネ等にも状況を伺い関係作りに努めている。 ・出来る限り、入所前に御本人にも施設を見学して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・訪問調査時に家族の要望や悩みを伺い把握するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・利用者さんにどのような要望があるのかを把握し、場合によっては居宅支援事業所と連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・調理や食事、片付け、お茶の時間やドライブ等、一緒にその日の予定を考えたり、余暇を一緒に過ごしたりすることにより、相互の関係作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会や行事等を通して、話を聞く機会を作り一緒に支え合えるような関係作りを行っている。 ・利用者さんの状態の変化等、その都度連絡し情報を共有出来るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族や親戚、友人などが面会に来られた際は自室や談話コーナーでお茶を飲みながらゆっくりと談笑できるようにしている。・馴染みのある方と電話でお話をしたり、年賀状を出して関係が途絶えないようにしている。	家族の面会は、月に2~4回位ある。利用者からどこに出かけたいなどの希望は聞かれないが、職員が誘って出かけると、懐かしがる時もある。また、家族が墓参りに連れて行ったり、馴染みの美容院へ行って白髪を染めてもらったりと、利用前からの関係を続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者さん一人一人の個性や利用者さん同士の関係性を理解し支援に努めている。利用者間のコミュニケーションに支援が必要な時は、職員が仲介に入り、利用者間の関係作りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所された方の面会に行き、生活の様子等介護職員に伺うつもりですが、現在は退所予定の方はおりません。 ・ご家族等から相談があれば、出来る限り支援出来るように努めていくつもりです。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・施設での生活の意向については、入所時の面接の際に御本人ご家族に希望等伺い把握に努めている。 ・毎日の生活の中でも希望等を伺い、生活に活かせるように努めている。	「家に帰り、草取りがしたい。」と話される利用者が1名いる。「散歩に行きたい。」と希望がある時は、その都度対応しているが、特に外出の希望もなく、職員が外に誘うことで、季節を思い出す様子も見られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所前の訪問時や家族さんが面会に来られた際に話を伺っている。また、毎日の生活を通して把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日の生活の中で利用者さんの生活パターンや心身の状況の変化について把握出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・センター方式を利用してアセスメントをして、利用者本人及び家族の意向、心身の状況を把握し、介護職員、かかりつけ医等の関係者から頂いた意見アイデアを反映し介護計画を作成している。	利用者担当制となっている。今後、アセスメントを職員が行うことが出来るよう取り組んでいきたいと、管理者は考えている。家族の面会時に、ケアプランを見ていただき、話し合いを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子や介護・処置の記録、食事・水分量、排泄チェック等、記録している。その記録を見直し、介護職員の意見等聞き計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・当施設は1ユニットを主としており、この範囲内での可能なサービス提供に取り組んでいる。認知症の進行がいくらかでも遅くなるように騒いだり徘徊するにも「意味がある」として捉え、一緒に行動したりするバリデーション療法を取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・可能な範囲で、民生委員、区長、、警察、消防、近隣住民の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・現在5名の方が訪問診療を希望され月2回職員立会いの下受けられている。他の方は家族が受診に同行している。GHでの生活の中で気になる事がある時は主治医に電話などで報告し指示を仰いでいる。・緊急時や御家族の都合によっては職員が対応する事もある。	訪問診療を利用しているのは5名、通院を家族対応やグループホームで行っている利用者は4名となっている。また、週1回、木曜日に看護師が健康管理を行っている。整形外科等専門医の受診が必要な時は、家族が対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・木曜日に看護師が健康管理を行っている。 ・急変時についても連絡体制を築き、日常生活を安心して送れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・4月に転倒骨折をして手術をされた方がいたが、家族が一緒でないと病院からの情報は入らなかった。入退院時、または面会時にも情報交換を行い、医療機関との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・今まで1度だけ看取りを経験した。看取りに関する指針についても文書化して作成した。事業所での看取りを希望されているご家族もいらっしゃるのので、指針をもとに行っていく。	看取りの指針があり、訪問診療が週1回訪問している。看護師の協力や、管理者も看護師の有資格者でもあり、看取りへの取組体制ができている。さらに、職員が不安なく支援できるよう今後も取り組んでいきたい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時の対応マニュアルを作成し、事業所に備えている。隣接するデイサービスとAEDの使用法について研修会を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防署員に立ち会って頂き避難訓練を実施している。隣のデイサービスからの出火の想定で手伝いに行った。終了後は検討会を行い改善点を出し合っている。毛布、水、反射式ストーブ、ライトなどは備えている。地域の方にも緊急時には協力を頂けるようお願いしている。	例年、デイサービスと合同で、消防署員立ち合いの避難訓練と、グループホーム独自の避難訓練の2回行われている。また、岩手県内で台風の大きな被害があったこともあり、早々に大雨の時の避難訓練をグループホーム単独で予定している。	外が暗い時間帯に、実践に即した避難訓練を近隣の協力も得て行うことに期待したい。日中では分り得ない避難経路の暗さや、利用者の暗い時の精神状態の確認ができることと思われる。また、食料品や備蓄品の見直しにより、火災や自然災害に備えることがより必要になっている状況と思われる。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・機会があるごとに入居者の方への声掛けや対応方法を確認をしている。人生の先輩として、同じ目線で優しく声掛けをし一方通行の対応とならないようなケアに努めている。排泄介助・入浴介助などでもプライバシーを尊重したケアに気をつけている。	トイレ誘導の時には、直接的な言葉でなく、「ちょっと」と声を掛けるなど、配慮している。また、見守りが必要な利用者に配慮し、トイレの外から、本人が気にならないよう、また、気付かれないように見守りをするよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常生活の中でゆっくり会話する時間を持っている。その会話の中で本人の思いや希望を聞けることが多く、職員一人一人が利用者さんの発する何気ない一言を聞き、職員間で共有している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員側の都合が優先がちになってしまっている時があり、その都度職員間で利用者さんが優先である事を確認合っている。希望に添ったケアを確認し、援助している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・毎朝、男性は髭剃り等整容し身だしなみを整えている。自身で上手に出来ない方には職員がお手伝い整容している。2～3か月に1回程度、美容師に出張してもらい散髪している。 ・季節や場に合った装いが出来るよう声掛けしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・行事食や季節の食材を取り入れた献立を工夫している。外食も行い、今年は展勝地のレストハウスで川のせせらぎを見ながらラーメンを食べ、食と景色を堪能して頂いた。好きな物を自分で取って食べられる楽しみを感じて頂いた。食器拭きや能力に応じた調理なども手伝って頂いている。	利用者の能力に応じて、野菜を切ってもらったり、食器拭きや食器棚に食器を片付けをしてもらっている。また、隣接しているデイサービスで、月1回、餅つきが行われ、餅が食事メニューとなっている。職員の介助が必要になっている利用者にも、職員が注意しながら他の方々と同じ餅が提供されている。また、万が一、餅が喉にひっかかった時の吸引の準備もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・本人の食事量や健康状態に合わせて量の加減をしている。旬の食材を取り入れて調理している。 ・食事摂取量が低下している方には家族や医師に相談し高カロリー飲料等提供し栄養のバランスが確保出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、口腔ケアを行うよう声掛け、誘導、介助行っている。自身で出来ない方には職員が介助し歯磨きしている。月1回訪問歯科診療を受け、歯科衛生士より口腔内の確認とケアの指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表でパターンを把握したり行動観察を行い、一人一人にあった声掛けや誘導を行っている。会話が成り立たなくなり、頻回に放尿放便をされる方がいたが、服薬で改善された。	リハビリパンツを使用していない利用者が半数を占めている。骨折により、退院後、おむつを使用している利用者は、立位保持から歩行と身体状況の改善に努めながら、リハビリパンツの使用に移行できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・個々の排便状況を把握し、便秘時は牛乳を飲用したり、腹部のマッサージをしたり、自家製のどくだみ茶やスギナ茶で自然排便を促す様にしている、継続して行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴は1日おきや週に2~3回、本人の希望や体調を考慮し入浴して頂いている。入浴前にバイタルチェックを実施している。今年も6月に薔薇風呂を数回行いリッチな入浴を楽しんで頂いたりしている。	入浴拒否の方はいない。同性の介助を希望する利用者には、適切に対応している。また、薔薇の花のお風呂や菖蒲湯、年に1回は、デイサービスの温泉の湯に入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・午睡の習慣がある方は、今までの生活習慣を大事にして頂き休んで頂く。 ・夜間、ゆっくり休んで頂けるように日中に体を動かす機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個々の主治医の指示薬の理解と服薬管理に努めると共に、変化が見られた際には医師（及び家族）への報告に努めている。また、服薬チェック表を用い、服薬確認している。稀に拒否される方がいるが、理解して頂き服用している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・一人一人の心身や状況の変化、意向を尊重し日々の生活の中で役割を持てるよう援助している。 ・散歩やドライブ、行事等に参加して頂き気分転換をして頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日はドライブに誘って、季節を感じとって頂いている。花が綺麗に咲く場所や道の駅などでソフトクリームを食べに行く事もある。年に1から2回は外食へ出掛けご自分で好きなメニューを選んでもらう機会も設けている。家族が面会に来られた時は外食される事もある。月1回認知症カフェに参加して、他のかたとの交流に参加して頂いている。	認知症カフェに参加した利用者は、表情も明るく笑顔が見られる。散歩など希望があれば、その都度対応しているが、職員が誘って外に出るような状態で、特にどこかに行きたいとかの希望は出ていない。歳末に、北上のさくらホールで、詩の朗読を披露している利用者があり、利用者の能力を活かした支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・御本人で管理できる方は、そのまま自身で管理して頂き、欲しいものがあれば職員が購入して来てお金を頂いたり、職員と一緒に買い物に出掛けたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご家族に電話をかけたいと話された方には職員が電話をかけ、家族さんと本人がお話できるようにしている。年賀状のやり取りもされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家庭的な生活空間や環境作りを目指してカレンダーや絵画等飾っている。玄関にも季節の花を等、職員の自宅にしている花を摘んできて飾っている。利用者の皆さまにも折り紙などで飾り作りをして頂き共有スペースや自室に飾って頂いている。	訪問時は、季節のお月見に合わせた飾りつけがなされていた。テーブルには、散歩時に摘んできた「猫じゃらし」が飾られてあった。利用者が、居室を間違えることがないため、居室前に利用者の名前や目印は特に付けていないことが、家庭的に感じられる。玄関には、管理者の家の庭で咲いた薔薇の花が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・畳コーナーや談話—コーナー、食事席や居室等、利用者さんの好きな場所で寛いで会話して頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅で使用していた布団や衣装ケース、カップやアルバムなどを持って来て頂いたり、好きな花やぬいぐるみを飾ったり、馴染みのある生活を継続できるようにしている。	見学した居室には、家族が遊びに来た時のために、複数の椅子が準備されていた。家族が、プレゼントに持ってきた鉢植えが生き生きと花を付けていた。また、その鉢植えを家族に褒められることで、利用者の自信につながっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ホーム内の動線を解りやすく設計しているが、必要に応じて「トイレ」と表示を行うなど日常生活を安心して送れるようにしている。		